



子どもの可能性を信じて

校長 寶來 生志子

私は、小さい頃から先生になりたいと思っていました。教えたがり屋だったのです。その反面、小学校低学年の時は、引っ込み思案で、無口な子どもでした。手を挙げるのが恥ずかしくて、「間違ったらどうしよう」と思っていました。声も小さくて、「聞こえません。」とよく言われていました。今の私からは想像できないと言われるのですが。私が急におしゃべりになったのは、高学年になってからです。担任の先生は「合唱クラブに入ってから積極的になったね。」と言ってくれたのですが、実はきっかけは違ったのです。本当のきっかけについて知りたい方は、校長室に聞きにいらしてくださいね。

この自分の経験から、子どもは変わる可能性があることを実感しました。そして、教師として自分が見ているのは、もしかしたら子どものある一面かもしれない。一面だけでなく、その子どものいろいろな可能性を探っていく教師になりたいと思いました。

そのためには、保護者、地域の皆様など、子どもにかかわる大人が連携して、その子のよさや可能性について語り合うような関係性が欠かせません。

先日のスポーツフェスティバルでも、保護者の皆様が来てくださり、子どもたちの頑張りを応援し、よさを語ってくださいました。これがきっかけとなり、新しい自分を開花させた子どももいると思います。12月にある個人面談でもお子さんのよさや可能性についてお話できたらと考えております。

今後も子どもたちの可能性を信じ、指導・支援していきます。



6年1組の活動が紹介されました！

11月11日付の朝日小学生新聞に、サッカーがテーマのまんが「アオアシ」(小学館)を使った授業の様子が紹介されました。印刷だと文字が小さくて見えにくいと思います。恩田小学校ホームページで拡大してご覧ください。